

Q 景観を英語にすると landscape というのが一般的です。景観デザインは landscape design となって、造園設計という言葉と混同しないのですか？

狭義の意味ではそうなりますが、広い意味では、およそ人間をとりまく自然環境や人文環境も含めたものが landscape であり、その意味において、景観のデザインと言ってよいと考えます。land は大地を、-scape は眺めること、見ること、観ることを表す接尾語であり、日本語に訳される過程でそれぞれ、景と観を当て、景観になったという経緯があります。

景観ということばのおもしろい点は、水辺景観、都市景観、里山景観というような使い方から分かるように、観る人の視線や視点と観られるものが、同時にひとつのことばに存在することです。それに対して、水辺の風景とか都市の風景、里山風景という、観られる対象に力点が置かれており、観る側というのはあいまいです。このように、景観は、主体と客体が意識された極めて合理的なことばと言えるのではないのでしょうか。(昨年の TDA 連続講座土田ノート参照)

Q 景観をデザインするとは、具体的に何をすることですか？

基本的には、都市デザインや建築デザイン・ランドスケープデザインと一体になって、街や地域の景観形成のために、街並や建物の外装、構造物の外観、街路の道具や仕掛け等、全体的な景観の調和を図ることです。特に、重要な視点場からの見え方を検討したり、歴史や文化との連続性やコンテクストの分析は大切です。

又、地球環境という視点に立って、まちづくりを捉えることも重要で、低炭素社会の実現に向けた建築や土木構造物の外装計画や、屋上庭園や壁面緑化、緑地の整備等、極めて緊急の課題として、景観デザインの中に取り込む必要があります。

とりわけ、景観の骨格を形成する壁面線や高さ・容積の制限、オープンスペースのあり方など、地域の特徴や市民生活に直結した課題に関する人々の要望が、反映されるワークショップ等の仕組みを活用することも大切です。

TDA コミュニティ

今年度から、デジタルハリウッド大学とTDAとの業務提携が結ばれ、夏からはTDAメンバーが大学院授業の教壇に立つことになりました。また、連続景観講座は会場も同大学の教室をお借りして、第一回が5月21日に開催となり、12月までの計8回の開催を予定しています。詳しい内容はホームページをご覧ください。

TDAの年度末は8月31日で、10月末の通常総会では役員改選となります。前回のこの欄でもお伝えしましたが、現在「研究部会」「研修部会」「交流部会」「開発部会」「顕彰部会」「特別部会」の6つの事業部会がさまざまな活動を企画実行していますが、何分にも人手が足りません。創立以来12名の役員はほとんど顔ぶれが替わっていませんが、新年度からはさらに役員増強と実質的な活動メンバーを募って行きますので我こそはと思われる方の積極的なご参加をお待ちします。



業務提携したデジタルハリウッド大学の杉山知之学長(左)とTDA代表理事・曾根幸一(右)

編集後記

もう梅雨になってしまいました。忙しさに追われ、『景観文化(5号)』の発行が若干遅れてしまったことをお詫びいたします。本年度の「景観講座」第1講もデジタルハリウッド大学の共催により好評のうちに終了し、新年度のスタートを切ることができました。『景観文化』も新年度を迎え、好評だったTDA副代表理事、高橋徹による『トウさんのQ&A』を、今号から『景観Q&A』としてリニューアルすることにし、新たなスタートを切りたいと思います。これからは読者の皆様の質問も受けながら、TDAのメンバーが交代で回答していきます。今号から8号までの4回は、安部貞司、櫻井直樹が担当します。景観に関するご質問をお待ちしております。

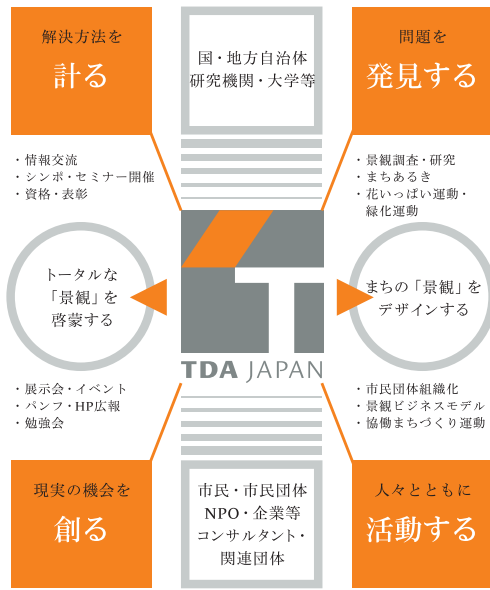
『景観文化(5号)』は、「ネパール特別部会(会長:高橋副代表理事)」のネパール視察報告特集号となったため「海外ランドスケープ事情」はお休みさせていただきました。

6月27日(土)に、TDAとJUDI(都市環境デザイン会議)の合同企画として『町歩き [東京・臨海部開発の昨今]』を企画しました。申込みは event@tda-j.or.jp までお願いいたします。

(広報担当:栗原) [デザイン:(株)アーバンプランニングネットワーク] 2009060500

景観ビジネス 最前線

特定非営利活動法人
景観デザイン支援機構
Town Design Aid, Japan



- A 正会員 年会費10,000円 (入会金10,000円)
- B 賛助会員(個人) 年会費5,000円 (入会金なし)
- C 賛助会員(団体) 年会費50,000円[一口] (入会金なし)

『景観ビジネス最前線』のコーナーでは
景観ビジネスに関する
企業広告を募集しています

掲載料: 賛助会員(団体)企業 20,000円/回
非会員企業 30,000円/回

お申し込みはTDA事務局までお願いします。
e-mail: main@tda-j.or.jp

景観文化

2009-06-01

TDA JAPAN



インフォラム

このスケッチは今年5月のまちなみスケッチ塾で新宿中央公園から新宿駅方向を見て描いたものです。中央の道路は途中から地下道となって新宿駅西口広場に突き当たります。都庁はこの絵の右側にあるのですが、あまりに大きすぎて入り切れません。

この辺りは1960年代までは淀橋浄水場があったところで、1971年の京王プラザホテル(右手のビル)の完成から始まって次々と超高層ビルが建ち並び、1991年からは都庁も移転してついに東京の都心になりました。

最近では東京都内のあちこちに超高層ビルが建っていますが、都市計画的にまとめて造られたのはこの西新宿地区だけです。しかも、浄水場跡地を活用したため、各区画の形状が整形で建築地盤が周囲の地盤より一層分低くなっており、そのために南北方向の街路と東西方向の街路が立体交差になっています。また、建物の周囲に公開空地というオープンスペースが設けられているので、マンハッタンのように閉塞感はありませんが、逆に歩道が二重になっているため賑わい感が生まれにくいという意見もあります。

画面の中央に見える妙な形のビルは昨年完成して話題を呼んだ「モード学園クワンタワー」で、地上50階、高さは約203メートルです。設計は都庁と同じ丹下建築都市設計で、施工は清水建設です。その名のとおりマユのようなイメージで結構目立っていますが、逆に周辺景観との調和を乱しているのではないかという意見も聞かれます。

まちなみスケッチ塾長/八木健一

VOL.5-目次

- 表紙
- インフォラム(絵・文)/八木健一
- 見開き
- TDA テーマリリース
- 特別レポート:ネパール特集/高橋徹
- 裏表紙
- 情報告知板「景観文化Q&A」/櫻井直樹
- 裏表紙
- TDA コミュニティ/編集班
- 裏表紙
- 景観ビジネス最前線(TDA)



NPO法人 景観デザイン支援機構 事務局

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-28-8-302

Tel 080-6722-4114 Fax 03-6459-2221

e-mail: main@tda-j.or.jp

URL: http://www.tda-j.or.jp

特別レポート ネパール特集

TDA特別部会 高橋 徹

2009年4月上旬、TDA会員有志によるネパール西北部のナウリコット村環境保全事前調査のためネパールを訪問した。今回の特集は、その概要報告と、世界の中でも特異というべき中世と現代が共存する都市カトマンズを中心にネパールの街と田舎を紹介する。

(世界遺産都市カトマンズ)

ネパールは世界の屋根ヒマラヤから亜熱帯のジャングルまで広がる変化に富んだ国土に、自然と人が織りなす万華鏡のような多様な世界をつくる。

首都カトマンズは、主に13世紀以降、都市国家として発展し、ヒンドゥーの文化と仏教とが融合し、中世の形や建物が破壊されずに残る都市である。1979年にはカトマンズ盆地全体が世界遺産に登録されたが、現在は急激に都市化が進んだため8箇所の局地的な指定に変更された。



カトマンズ盆地には、中心のカトマンズの他に、パタン、バクタプルという三つの旧王都がある。街はいずれも高密度に集住し、建物と広場が織りなす景観は極めて都市的である。旧王宮とも、王宮広場を囲んで、木と赤レンガが混じる特異な構造、勾配屋根、あるいは2重～5重の層塔建築を持つ大規模建物から構成されている。

●伝統的古民家の修復



仏教僧院などの寺院建築は中庭を囲む形式が多く、このような中庭は「チョーク」と呼ばれる。



街中の一般民家も3、4階と比較的高層である。構造は中庭を持つ長屋形式が多く、棟割で1戸が1階から最上階まで使う。ヒンズーの清浄思想もあって、1階は家畜、倉庫、作業場、店舗など、2、3階が居間、寝室、最上階に神聖なかまどがある台所兼食堂が置かれる。

(遊歩都市の迷路歩き)

山国ネパールでは徒歩がメインの交通手段だ。馬車が発達しなかったのは日本と共通点を持つ。都市カトマンズでも、まともに車が走れる道路は少ない。

人々の主歩行ルートは中庭から中庭を繋ぐ路地歩きである。道路沿いの建物の狭い貫通口を抜けると、その先の中庭(チョーク)は広く、店、軽作業場、小



重要な王宮建築や寺院建築については保存、修復が行われているが、民間建築については行き届かず崩壊に至るものが多い。しかし、パタンにある「Newa Chen」はユネスコの修復プログラムによって伝統的な建築デザインを守りながらプチ・ホテルとして、中庭、内部造作や住まい方含めてリビング・ミュージアムともいえる環境を再生している。夜、中庭でランプの下、飲んだ地酒ロキシーの美味さが忘れられない。

学校や寺院までついたものすらある。さらに、次の建物を抜けるとまた中庭が現れるという不思議な空間体験をする。

(街の縁側、ダルマシャーラ)

街中を歩くと、街角や広場などの要所、要所に休み場が用意され、街のお年寄り達の溜まり場となっている。これは元々、巡礼者や旅人が自由に使える公共の休憩施設としてダルマシャーラ(避難所の意味)といわれるもので街の成功者が寄進して造られる。庇状で小型の「パティ」と呼ばれるものや、宿泊所つきのものなど大きさもいろいろある。



寺院の基壇や階段、村の入口、橋のたもとなどに「チョウタラ」と呼ばれる休み場が作られる。大木の木陰に石段に造られたベンチは背中の荷物を置くのにちょうど良い高さである。ネパールの街も田舎も、歩く人、旅する人には優しい。



●カトマンズの環境問題 (停電、水不足、大気汚染、ゴミ)

一日14時間の停電である。最初は毎晩ロウソクの下でと覚悟したが、現地に入れば、人間はそれなりに環境に順応できるものだということが判った。停電エリアは計画的にローテーションされ、民間も自家発電等で予防対策を取り、最低限のサービスはなんとなく確保されている。給水事情は深刻だ。乾季、特に近年

●TDAネパール・プロジェクト

1. ナウリコット村 事前調査報告

対象地域は、ネパール中西部、8000m級のダウラギリ峰とアンナプルナ山群の間を流れ、昔よりチベットとインドを結ぶ交易路として、またヒマラヤ有数のトレッキングルートであるカリ・ガンダキ渓谷に面し、標高約2700mの丘に位置する農山村集落である。



カリ・ガンダキ渓谷

ナウリコット村は30数戸であるが、3000年前より存在するグルサンボ洞窟への巡礼により発達した歴史を持ち、亜熱帯からチベットの風景に移り変わる境目にあたる景観的にも人文的にも貴重な環境を残している。

産業としては自給的な農業しかなく、近年は若者が都会に流失し、人口減少、高齢化が進む。集落内には廃屋化のため建物の崩壊したものも見られる。加えて、近年は道路整備で、自動車の進入が始まり、観光客(インド人巡礼者などを含む)増加を当込んだ安易なロッジや店舗建設が散見され始め、本来の自然や伝統的風土景観が壊れつつある。

これらの問題に対して、地元地域の住民としては環境に配慮しながら地域の伝統的な資源価値、観光的価値を落とさない方策を求めている。これらの過程で、この地域と交流を続けていた本会役員を通して地元から協力要請があり、本会としては基本的な課題が地域再生まちづくりであり、活動目的にも合致することから、検討を開始するため事前調査を行った。



ダウラギリ峰とナウリコット村(右)



ナウリコット村

(調査概要)

- ・訪問国：ネパール国 ダウラギリ県ムスタン郡ナウリコット村及びカトマンズ
- ・現地調査：2009年4月5日～4月16日
- ・調査メンバー：(TDA) 曾根幸一、土田旭、吉田慎吾、高橋徹、(明治大学) 小林正美、(日本ランドデザイン) 山内昭夫



ビデオ撮影による集落配置調査

(調査結果とプロジェクトの方向性)

当地域の問題は急速に進行しており、無人化した家屋の崩壊危険性など、早急な調査・診断が必要である。地域の伝統的集落及び家屋は石積み構造で屋根は平らの陸屋根で構成されている。近年は地域の素材や色に基づかない

建材や建築形式の家屋が増加している。これら問題点の進行を食止め、世界的にも貴重な当地域の資源、資産の保全をおこなうため、その先行的なモデル事業としてナウリコット村再生プロジェクトを提案するものである。

●提案プロジェクトの基本テーマ：

「廃屋再生プロジェクトを通じた、村全体のリビングミュージアムとしての再生」(村の伝統・風習を守った村の魅力づくりを行い、外国人にとっての魅力も向上させ、地元にとっての自信と希望を与える)



再生対象の廃屋調査

2. 事前調査報告会と今後のプロジェクト協力の参加者募集

現地調査を踏まえて、スライド等でナウリコット村周辺地域やカトマンズの都市と建築の紹介をします。また、本プロジェクトの基本構想(リビングミュージアム構想)について、ご参加の皆様と自由に議論し、視野を広げるとともに、事業化の輪を広げたいと考えています。本プロジェクトにご興味、ご関心をお持ちの方、また今後、ご参加頂ける方など、どなたでもおいで下さい。なお、本プロジェクトは、JICA草の根技術協力事業(草の根支援型)としての事業化を検討しています。

- ・日時：平成21年7月10日(金) 18:30～20:30
- ・場所：(株)コトブキ D.Iセンター (2階、D.Iスタジオ) 港区浜松町1-14-5 (JR浜松町駅北口)
- ・参加費：無料
- ・詳細：TDAホームページ参照

代もあったが、今は街中の投棄ゴミが目立つ。不法占拠が多い河川敷はゴミで埋まる。このようなゴミ問題のアドバイザーとして、日本のシニアボランティア・渡辺治郎氏が昨年10月より派遣されている。氏は都市計画コンサルタントとして当会メンバーと知己が多いが、今回、偶然、カトマンズでお会いした。我々のプロジェクトにとっても、強力な推進役になって頂けると期待している。



河川敷に投棄されたゴミと子供たち